

## 事例8

千葉県木更津市立八幡台公民館・木更津市立八幡台小学校

# ひばりチャレンジ広場

## 連携の経緯



平成17年から、八幡台小学校が中心になって「子ども教室推進事業」(月・木曜日の放課後)を実施していたが、ボランティア不足などによる子どもの安全確保などの問題から、放課後の学校運営に支障が出始めた。そこで、学校は、「子ども教室推進事業」の円滑な運営を図るために公民館に相談した。公民館は、「子ども教室推進事業」を地域主体の運営とするために、平成19年、八幡台小「ひばりチャレンジ広場」運営委員会(以下ひばりチャレンジ広場)を立ち上げ、実施計画、会則などを作成し、地域主体の運営を実施している。

## 連携事業の概要

この事業は、八幡台小学校児童の放課後の居場所づくりを推進することを目的とし、保護者、見守りサポーター、地域の諸団体・機関が相互に連携・協力し合い実施することで、地域の教育力を高めるものとなっている。

事業内容は、①子どもたちが自主的・自発的に取り組む諸活動、②運営委員会を中心にして企画する諸活動、③その他目的達成に必要な事業、について実施している。具体的には、自由遊び、けん玉、将棋、バトミントン、サッカーなどの活動を行っている。

その他にも、公民館は公民館講座(科学実験講座・家庭教育学級等)の講師を、校長、教員、栄養士、養護教諭などに依頼し、公民館や学校の施設(理科室・図書室等)を使用し実施している。

また、学校では校舎内に「社会教育コーナー」を設置し、公民館の事業の広報・PRなどを実施している。

### 平成19年度 事業計画(案)

日付	会場・事業	会員	内容
平成19年1月4日(月)	年度1年始業式	八幡台小学校	・年度1年始業式開会式にて ・連携について ・会員の選出について
平成19年1月17日(木) 1月19日(土)チャレンジ日曜	八幡台小学校	・日曜開け 開会	
1月21日(火) 1月23日(木)	公民館	・チャレンジ会場の確認に向け	
1月21日(火)	会員登録	八幡台小学校	・1会員1会員、1月21日の会員登録
1月24日(水)	会員登録	八幡台公民館	会員からの事業計画・会員登録に向け
1月25日(木) 1月26日(金)チャレンジ日曜	八幡台小学校	・連携開け 開会	
1月26日(木)	会員登録	八幡台小学校	1月21日の事業計画・会員登録に向け
1月27日(金)	会員登録	八幡台公民館	・チャレンジ会場の確認に向け
1月28日(土)会員登録	八幡台小学校	・会員登録、1月21日の会員登録	
1月29日(日)会員登録	八幡台公民館	1月21日の事業計画・会員登録に向け	
1月30日(月)会員登録	八幡台小学校	・日曜開け 開会	
2月1日(火)会員登録	八幡台公民館	・チャレンジ会場の確認に向け	
2月2日(水)会員登録	八幡台小学校	・会員登録、1月21日の会員登録	
2月3日(木)会員登録	八幡台公民館	1月21日の事業計画・会員登録に向け	
2月4日(金)会員登録	八幡台小学校	・日曜開け 開会	
2月5日(土)会員登録	八幡台公民館	・会員登録の承認、会員登録に向け	
2月6日(日)会員登録	八幡台小学校	平成19年の会員登録会場に向け	

## 連携の形態

本事業は、公民館が中心となり、ひばりチャレンジ広場(公民館、学校、PTA、見守りサポーター、子ども会、区・自治会、民生児童委員、学校支援ボランティア等で構成)を立ち上げ、運営委員会が中心となって、放課後の「子どもの居場所づくり」が円滑に運営できるようにした。学校では、主に教頭が窓口となり、校庭・図書室・少人数学級(チャレンジ教室)・体育館などの提供を行っている。

# 千葉県木更津市立八幡台公民館

## 【施設データ】

所在地	千葉県木更津市立八幡台4-2-1
電話	0438-36-4010
設置年	昭和55年
対象地域人口	7,250人
延床面積	635.24m <sup>2</sup>
設置状況	単独
U R L	

## 【施設の管理運営等】

職員の状況	・館長<分館長> (非常勤1) ・主事(専任1) ・職員(専任1)
	協議会等
予算額	維持管理費：円 事業費：449,930円

## 連携の留意点

- 運営委員会は、「ひばりチャレンジ広場」の運営を円滑にするために、参加者の創造的な活動を支援する「サポート部会」やイベントの企画、参加者の募集、庶務などを行う「総務部会」を設置し、役割分担をし体制を整備している。
- 公民館が、地域の各サークル・団体などの核となる方々を把握し、事前に説明に伺い、協力を求める。
- 一ヶ月に1、2回、職員同士（学校は主に管理職）が、公民館と学校を行き来し、学校運営上の課題や地域の課題などの情報交換を行うなど連携の機運をつくっている。
- 公民館事業の広報・PRのチラシを学校に配布する時は、あらかじめ配布数をクラスごとに分け、学校に負担をかけないようにする。



## 成 果

### <学校から>

- 子ども教室推進事業が、学校主体から地域主体に変わることで、学校運営が以前より円滑になった。ボランティアも、以前の「学校からお願いされている」という意識から積極的に学校施設・整備などの環境面に責任を果たす機運ができた。
- 学校職員（主に管理職）は、学校の問題や課題を公民館職員に気軽に相談できるようになった。
- 公民館が、学校の教育活動に理解を示してくれるので、担任の意識に変化が見られ、公民館主催の作品展や事業の広報・PRにも積極的に協力するようになった。

### <公民館から>

- 校長が、公民館年間事業に学校職員も参加するように積極的に呼びかけてくれ、学校職員が公民館事業に年間1、2回参加してくれる。
- 公民館事業の広報・PRなどのチラシは、「社会教育コーナー」だけでなく、対象学年の掲示コーナーにも掲示され、より広報しやすい環境が整っているので、講座への参加人数の増加にもつながっている。
- 学校の教育資源である教員を地域活動の中に生かすことで、地域住民がより専門的な学習をすることができ、公民館事業参加者から喜びの感想・発言などがある。

## 課 題

- 公民館が学校と連携するのは、「小・中学生が、10～15年後に、公民館を中心とした地域活動に興味・関心をもち、自分の地域を大切にする人になってほしい」という考え方からである。今後も、学校を含めた「地域のネットワークづくり」を意識した事業に取り組んでいきたい。

